

探検隊

アカシア探検隊



津子さんの登場です。耳鼻科ではなく、東京へ取材に行くべきところ、予算の関係でアカシア会館と頼近さんの御自宅をアカシア会専用の衛星ホットラインで結び、インターネットが行われました。尚この模様はNHK教育テレビ「リチャードクレイターマンのピアノ教室」でも紹介されかけました。

乙 もしもし。拙者アカシア取材班の太田和泉守牛一と申します。織田浅井柴田市子様のお宅でござるか？

頼 そうじゃ。

乙 (ムムツ。合わせたな。さす) 乙 上様の妹君。方針を変えよう。今日は宜しくお願いします。早速ですが現在力を入れている活動等について教えて下さい。

頼 コンサートプランナーとして若手演奏家紹介コンサートの企画、聴衆との架け橋としての司会等を主に行っています。また、音楽や子育て等についての講演・執筆活動もしています。

乙 肩書はコンサートのプランナーということですが、そうなられた経緯を教えてくださいますか？

頼 そうなつたと言いか、気が付いたらいつの間になつていたというのが本当のところね。子供の頃から桐朋の音

楽教室に通ったりして音楽にはわりと親しんでいたし、その関係で周りに多くの音楽関係者がいたんです。自分が好きなものだから「ねえ。コンサート行こうよ。」とか「若手で凄いな才能のある人がいるんだけどみんなに紹介できないかしら。」とか言ってるうちに今の様な活動をどんどんやるようになったんです。

乙 なんかつラシックという窮屈な感じがするし、私みたいな人間でも興味はありますが、なかなか敷居が高いんですけど。

頼 そうでしょ。あれでだめよね。長時間あるのにやれ「居眠りするな」「くしゃみするな」だもん。そういう人にかぎって寝息たてたりするくせにね。そうじゃなくてもっと気軽に、リラックスして親しんでもらえるコンサートをやりたいって思ってます。それと未だ無名だけど才能があつて、将来が楽しみな音楽家をみなさんに知っていただく機会をもつと作って行きたいですね。

乙 私も行ける気軽な楽しいコンサートをたくさん企画して下さい。話はわかりますが元はアナウンサーをなさっていたわけですが、それを目指された理由を教えてください。

頼 これも目指したって訳じゃないんですよ。きっかけはアメリカのウインタースポーツのリポーターをたまたま引き受けてやった



頼近美津子さん

ことからなんです。素人仕事もんだからあまりうまく行かなくて悔しい思いをしたんです。それで試験だけでも受けてみようかという事になったんです。

乙 成績優秀だったからすんなりいったんでしょうね。

頼 そんなことナイナイ。たまたま。幸運が3つも4つも重なったのよ。

乙 へー。どんなことがあつたんですか。

頼 まず、大学からの推薦がよく引きで当たったこと。それも附属で教育実習中に電話がかかって来て「残った最後ののでいいです。」と言ったらそれが当たったの。次にNHKに行くために乗ったタクシーの運転手さんがメーターを倒し忘れたこと。その時の値段交渉の状況を面接で喋ったらそれが受けて一次面接をパス。そして小論文を書く時にオーケストラが練習してくれたのもラッキー。文の書き出しが閃いたから。

乙 どういう書き出しですか？

頼 「ああ、オーケストラの音が聞こえてくる」って始めたんです。それがまた印象に残ったみたい。今の仕事を考えると何か因縁みたいなものを感じるけど。そして極めつけが、最終内定者が健康診断でNGで結局私に決まった事です。

乙 ウソみたいないな！

頼 ホントの話。人間って運もあるのよ。ちょっと違えば私ももつとカタギな商売してたんだろーうけど。

乙 十分素晴らしいお仕事なさってると思います。次に附属時代の思い出をお願いします。

頼 やつぱり体育祭ですね。準備をする何ヶ月かは授業があつたのかしらと思うぐらい熱中しましたもの。準備をしている間の仲間との触れ合い、先生方との交渉等。何かを創り出してゆくことの欲びをものすごく感じました。考えてみるとアナウンサー時代や今の仕事もそこに原点があるようにも思えます。

乙 最後に現役の諸君に一言を。

頼 私達の頃と違うのは当然と思うけど、附属生らしさだけは失わないで頂きたいわ。時代が変わっても普通のものってあるはずだからアカシア出身の先生方も多いみたいなので宜しくお願いしたいと思います。

乙 今日是有難うございました。